

2022年4月1日斑鳩の里で観察した植物

ノボロギク（野檻樓菊）キク科ノボロギク属

ヨーロッパ原産の越年草、明治初期に渡来今では日本全国に分布、茎は中空で、葉は不規則に羽状に切れ込み色は濃緑色で厚い、表面に毛は生えていない。花は筒状花だけだから開くことはない。花期は温かい所であればほとんど年中咲いている、葉には「ピロリジシンアルカロイド」と言う毒がある、

名前の由来**＝「ノ」は野の意味、「ボロ」は、ほつれたぼろぼろの服や布をさします、ノボロギクの種子はタンポポの綿毛のような姿をしていて、それを遠くから見るとぼろぼろの姿に見えることから「キク」は菊の葉に似ているところから。花言葉**＝一致・合流・遭遇



ノゲシ（野芥子）別名ハルノゲシ、キク科ノゲシ属

名前の由＝葉がケシの葉ににているから、野にあるケシと。別名のハルノゲシはアキノノゲシに対し春に咲くので、食べる事が出来る、蕾は酢漬けで、葉は油炒めで、苦いので良く水に晒す、葉の先端を切り取る、又、乾燥させてノゲシ茶として飲む、イヌリンと言う成分があるので糖尿病改善が期待できる、又、咽頭炎や健胃にも良いと言われている、花はタンポポと同じく

舌状花です（花弁1枚が一つの花でそれが何個も集まった集合花です）よく似たのに「オニノゲシ」がある、葉に艶があり硬くて棘が鋭く痛い。***花言葉**＝悠久・見間違つては嫌・旅人・憎まれっ子世にはばかる。



ノジスミレ（野路堇）スミレ科スミレ属

日本の固有種、スミレは世界に約150種以上、日本には約55種有ると言われています、**名前の由来**、野の路端に咲いているスミレ、「スミレ」とは、花の形状が墨入れ（墨壺）に似ていることによる。スミレとノジスミレの分類は難しい、ノジスミレは葉柄に翼がある、花の側弁に毛が無い、スミレは葉柄に翼が無い、花弁の側弁に毛がある、ので分類する葉は天ぷらや湯がいておしたしや和え物で、花は酢のものや吸い物の碗だねとして食べることが出来るが、ニオイスミレなど毒のあるのもあるので注意が必要、***花言葉**＝謙虚・誠実・小さな幸せ



タガラシ（田辛子・田枯し）キンポウゲ科キンポウゲ属

水田、水路など水辺に生える2年草、**プロトアネモニン**と言う毒がある、食べると消化器官がただれる、皮膚の弱い人は触れるだけでかぶれるので触らない事です。特調は花も葉もエナメルを塗ったようにピカピカに光っている、キンポウゲ科の植物に共通点は、花弁に艶があることである。同じ仲間のキツネノボタン、やウマノアシガタとの違いは、果実（種子）が楕円形であること、キツネノボタンやウマノアシガタの種子は、コンペイトウの様に突つきがある。**花期**＝3～5月
花言葉＝意志を貫く・邪推・悪事・不毛にする・辛抱出来ない。



ムラサキサギゴケ（紫鷺苔）ハエドクソウ科サギゴケ属

中国、朝鮮、日本が原産、やや湿り気がある日当たりの良い処を好む、多年草、**名前の由来**は、ムラサキは花弁の色、サギは水鳥の鷺に似ているからと、恐らく鷺の頭の部分が似ていると思われる、コケは匍匐して成長するので、地に這っているコケに見立てての事である、よく似たのに、シロバナサギゴケ、トキワハゼがある、名前の様にシロバナサギゴケは花全体が白い、トキワハゼは匍匐せずに立ち上がっている、花がムラサキサギゴケに較べて白ツばい、花期が長い、ムラサキサギゴケの花期3～5月、トキワハゼはほぼ通年咲いている。***花言葉**＝忍耐強い・想いを募らせないで、



その他の観察した花、



ナヨクサフジ



アメリカフウ



セイヨウタンポポ



カンサイタンポポ

